

## Contents

### 新年のご挨拶

院長 木村 健二郎  
副院長 日山 博文  
副院長 山本 雅人  
看護部長 近藤 八重子  
事務部長 遠藤 和美

### 22年目の東京高輪病院

整形外科・リハビリテーションセンター長 白土 貴史

### 今後の新型コロナについて

感染症内科 守山 祐樹



vol.76  
2022.1



JCHOだより  
独立行政法人 地域医療機能推進機構  
**東京高輪病院**

医療連携・患者支援センター

〒108-8606 東京都港区高輪3丁目10番11号

TEL: 03-3443-9576 FAX: 03-3443-9570

<https://takanawa.jcho.go.jp/>

病院理念

心のこもった医療を安全に提供します。



## 新年のご挨拶

JCHO東京高輪病院 院長 木村 健二郎

き むら けん じ ろう



明けましておめでとうございます。

令和4年のお正月をつつがなくお迎えのこととお慶び申し上げます。

当院は平成26年に「せんぼ東京高輪病院」から「独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）東京高輪病院」へ改組され、本年で9年目となります。その間、病院をとりまく環境は大きく変わり、当院が提供する医療の在り方も変わることが地域から求められています。

この状況に対応するため、当院では回復期機能（地域包括ケア病棟）を充実させ、急性期機能と回復期機能を車の両輪として地域医療に貢献してまいりました。これにより在宅で療養されている方や地域の急性期病院で急性期医療を終えた方を円滑に受け入れることが出来ています。同時に、院内では急性期を脱した患者さんに地域包括ケア病棟へ速やかに転棟していくことにより急性期医療の質も量も維持することができています。

この2年間は中国武漢から全世界に新型コロナウイルスが蔓延し大変な状況となりました。生活は一変し、さらに経済に対する打撃も深刻になりました。医療施設はこの新しい感染症への対応に追われ、通常診療にも大きな影響が出ました。当院はお陰様で、院内

クラスター発生を乗り越え、昨年よりコロナウイルス感染症に対応しつつ通常診療を継続することが出来ています。ウイルスは時々刻々と変異していきます。新型コロナウイルスも例外ではありません。変異したウイルスに個別に対応していくことは容易ではありませんが、3回目を含めたワクチン接種を進めていくことは、感染そのものや重症化を抑制する力になってくれることと思っています。したがって、当院はワクチンの個別接種のみならず職域接種にも力を入れてきています。また、経口の新型コロナウイルス治療薬が使えるようになると、かなり医療現場の風景も変化してくれるのではないかと期待しています。新型コロナウイルス感染症が収束に向かい通常の生活と医療活動が取り戻せることを祈っています。

当院はこれからも地域の皆様とともに地域の医療を発展させ安心して暮らせる地域作りに貢献してまいります。本年が皆様にとって良い年になることを心より願って新年のご挨拶とさせていただきます。

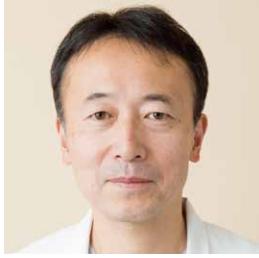




ひ やま ひろ ふみ  
**日山 博文**  
副院長

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染者が報告されてから3回の新年を迎ますがまだまだ油断が出来ない状況です。11月下旬には南アフリカで新たな変異株が出現し急速に世界に拡散しつつあります。日本は水際対策を強化していますがこれらの株などによる感染爆発がいつ生じるかわかりません。特に羽田空港や品川駅に近く居住する外国人の多い私たちの地域では再流行の起点になる懸念があります。このためにも医療人はもとより地域住民は油断することなく感染防御に努めることが重要です。過去の感染爆発の際にはクリニックの先生方から発熱のある患者さんの診察をお願いされる機会が多くありました（入院を前提とした受け入れは所轄の保健所が関与する必要があるため基本お断りしました）。これからも発熱を含め様々な症状を有する患者さんの診察依頼を積極的にお受けしますので紹介等よろしくお願ひ致します。



やま もと まさ と  
**山本 雅人**  
副院長

新年、明けましておめでとうございます。副院長の山本です。

昨年も、新型コロナ感染の第三波～第五波やその間に行われた東京オリンピック、新型コロナウイルスワクチン接種、職域接種など、新型コロナ感染に大きな影響を受けた一年でした。

そのような中でも、Webを利用した新しい形での医療連携会や、SNSを用いた診療相談などコロナ禍であったからこそ行えたものもありました。本年は、新型コロナ感染が収束を迎えることを願うばかりでありますが、どのような状況であろうと、患者様に良い医療を提供するためには、風通しの良い医療連携を実現させることが必要不可欠と考えております。

地域に必要とされる病院機能を模索し続け、それを提供し、地域と必要とされる病院を目指して本年も渾身の力で頑張ってまいります。本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



新年あけましておめでとうございます。

2021年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、私たちは自粛を余儀なくされた日常生活・社会生活・学生生活を送ってきました。日頃の感染予防対策の定着とワクチン接種率の向上により、感染状況は下火となり、感染者数が少ない状況で新年を迎えることができたことは大変うれしいことです。

とはいっても、新しい変異ウイルスが出現し他国では感染が拡大している状況であるためまだ油断できません。地域の皆様の生活が少しでも明るく充実したものになるよう、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の予防・蔓延防止のための対策を徹底し、病院での医療・看護の提供とともに在宅や施設等で療養される方々の支援にも力を入れてまいります。

今年の干支は「壬寅」、家族のような温かく優しい心をお届けできるよう努力してまいります。

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



新年あけましておめでとうございます。

私は昨年4月にJCHO東京高輪病院に着任し、この3月で1年を迎えるところです。

令和3年（令和2年から続く）は、日本全体がコロナに振り回された年であったということは言うまでもありません。

当院では、地域医療機能推進機構の名のもと、コロナ禍、職員はじめ患者様に不安を与えないよう十分な配慮、対策を行い、コロナ感染患者の受け入れやワクチン接種及び近隣企業等への職域接種を積極的に行ってきました。

変異株の出現などまだまだ気を許すことはできませんが、「地域に必要とされる病院づくり」に貢献できるよう職員一同頑張ってまいります。

令和の元号は、万葉集の初春令月、氣淑風和（初春の令月にして、氣淑く風和ぎ）を基に「春の訪れを告げる梅の花のように、明日への希望と共に一人ひとりが大きく花を咲かせられる日本でありたいとの願いを込めた」とあります。

皆さまの健康をお祈りしつつ、春の訪れに期待します。



えん どう かず み  
**遠藤 和美**  
事務部長

私は昨年4月にJCHO東京高輪病院に着任し、この3月で1年を迎えるところです。

令和3年（令和2年から続く）は、日本全体がコロナに振り回された年であったということは言うまでもありません。

当院では、地域医療機能推進機構の名のもと、コロナ禍、職員はじめ患者様に不安を与えないよう十分な配慮、対策を行い、コロナ感染患者の受け入れやワクチン接種及び近隣企業等への職域接種を積極的に行ってきました。

変異株の出現などまだまだ気を許すことはできませんが、「地域に必要とされる病院づくり」に貢献できるよう職員一同頑張ってまいります。

令和の元号は、万葉集の初春令月、氣淑風和（初春の令月にして、氣淑く風和ぎ）を基に「春の訪れを告げる梅の花のように、明日への希望と共に一人ひとりが大きく花を咲かせられる日本でありたいとの願いを込めた」とあります。

皆さまの健康をお祈りしつつ、春の訪れに期待します。

# 22年目の東京高輪病院

整形外科・リハビリテーションセンター長

しらとたかし  
白土 貴史



JCHO東京高輪病院整形外科・リハビリテーションセンター長の白土と申します。

私は2001年1月に当院に赴任し、今年で22年目を迎えることになりました。

赴任当初は整形外科のメンバーも5人でしたが、現在は8人（うち1人は育児休暇中）になりました。船員保険東京病院の時代から東京大学と昭和大学の合同チームで、筋野部長を筆頭にONE TEAMで整形外科を運営しています。

現在は手外科、膝、肩を中心に大学で専門的な治療や研究をしてきたメンバーが各自の専門分野をはもちろんのこと外傷を含め様々な整形外科疾患の治療を行っています。また若手医師の教育にも取り組んでおります。

私が母校の整形外科に入局したのは平成元年ですので30年以上の月日が流れていますが（平成の時代は医歴何年というのがわかりやすかったのです…）、その頃は今の研修医制度ではなく、卒業してすぐに大学の医局に入局するというのが大勢をしめていました。たしかその時であったと思うのですが、入局にあたり整形外科を選んだ理由を問われることがありました。スポーツ整形外科と外傷をやりたいこと、いずれガンなどは内科的な治療や予防医学で無くなる事が有るかもしれないが、怪我は無くならないであろうというような事を書いた記憶があります。現在初期研修医の採用面接をしている立場で考えると絶対に採用しないレベルの文章であったと思います。外房にある3次救急もある病院に勤務しているとき、週に5回開放骨折の手術で呼び出されたり、同じ大部屋に両大腿骨骨折の患者さまが2人入院しているというようなこともありました。いずれも交通外傷です。ちょうどその頃から、飲酒運転の取締が強化され始めそれに伴い明らかに飲酒事故による外傷が減りました。また骨粗鬆症の治療が進歩したことでも骨折の減少につながることになるでしょう。一方で高齢化社会が進み、平均寿命も長くな

り超高齢者と呼ばれる方の骨折も増えている印象があります。先日98歳で大腿骨頸部骨折の骨接合術を当院で施行した患者様が歩行中に転倒して反対側の大腿骨頸部骨折を受傷され骨接合術を行いましたが、103歳です。高齢者の場合様々な合併症や認知症に対する対処が必要になります。内科的には問題ないレベルの血糖コントロールでも周術期となると感染症のリスクがありますし、抗凝固療法も早期手術早期離床を目指す上で悩ましい存在です。そのような場合でも麻酔科や内科など他診療科の協力を得て乗り越えさせていただいております。またここ最近のコロナ禍では今までとは違うことに気を遣うことが多くなりました。といえば、パラリンピックの医事をお手伝いしている時、本番前日に外傷受入病院でクラスターが発生し受入できなくなりましたと言われたこともあります。とある競技団体の情報医科学委員をお手伝いしていることもあり海外遠征やワールドカップで骨折した選手を当院にて手術することになった時も多方面の方々に色々とご協力をいただきました。また一方で羽田からのアクセスが良いという当院の利便性の良さが発揮でき選手や関係者の方々にも感謝されました。

最近、活動の一つとして病診連携強化と顔の見える連携を目指した近隣医療機関への訪問活動を積極的におこなっており、私も約週1回のペースで訪問活動をさせていただいております。訪問時間がどうしても夕方の時間になってしまい、各医療機関におかれましては非常に忙しい時間帯の訪問になってしまい誠に恐縮ですが、その際にはどうぞよろしくお願い申し上げます。





# 今後の新型コロナについて

もり やま ゆう き  
感染症内科 医師 守山 祐樹



## 第6波は来るのか？

いつも大変お世話になっております。感染症内科の守山です。

本稿執筆時（2021/11/29）は都内では1日あたりの新規陽性患者数はめっきり減って、随分と落ち着いた様子です。これほど長く流行状況が落ち着いているのは最初の緊急事態宣言以降、初めてではないでしょうか。

他方、海外に目を向けるとドイツをはじめとしたヨーロッパ、お隣の韓国など、むしろ感染者数が増えている国も多く見受けられます。また、南アで報告された新たな変異、オミクロン株も世間の注目を集めています。

よく、「第6波はくるの？」と聞かれます。私自身は（あるいは色々な専門家が）「間違いなく来る」と思っています。しかし、波の高さや期間が第5波より大規模になるかどうかはわかりません。私自身は第6波が来ても、第5波ほどひどいことにはならないんじゃないかと思っています。

いい情報がいくつかあって、まずは国民のワクチン接種が進んだこと。また、点滴や内服薬で有効な治療薬が出てきていることです。悪い情報としては日本以外の国ではまだ感染者が多く、新しい変異株が出てきていることです。

第6波を最小限に抑えるためには私たちは何をすべ

きでしょうか？

1つ目はワクチン接種です。現時点で8割ほどの方が2回のワクチン接種を済ませていますが、まだ接種されていない方もいます。アレルギーがある方、副反応が不安な方、さまざまな理由で接種されていないかと思いますが、新型コロナの診療をしていると、やはりワクチン接種をしている方はかかりにくく、かかっても重症化しにくいような印象を持っています（印象だけでなく、論文も出ています）。この機会に接種を検討していただくことをお薦めします。3回目の接種も始まりつつありますので、そちらもご検討ください。

2つ目は手洗いやマスク、密を避けるといった基本的な感染対策です。

ただ、ずっと自粛したまま過ごすのは辛いので、感染が落ち着いている時に、今まで会いにくかった人と会ったり、外に出たりと緩める時は緩め、逆に感染が広がっている時は自粛をするという濃淡のある対策で良いと思います。今は緩める期間だと思いますが、陽性者数が増えてきたら、また感染対策を強めていく切替が必要ですね。

さて、ここまで色々書きましたが、この落ち着いた時間がなるべく長く続き、次の波が最小限で済むことを祈っています。皆様の健康を心からお祈り申し上げます。



## 令和3年度10月 新任医師のご紹介



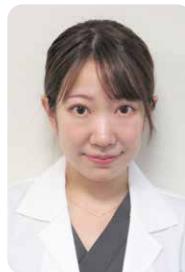
ささはら  
**笹原 篤**



出身大学・最終学歴：熊本大学 平成5年卒  
専門分野：脳血管障害、水頭症、高次脳機能障害  
得意とする診療領域：  
脳血管障害、水頭症、高次脳機能障害  
今後取り組みたい分野・治療：  
低侵襲脳神経外科手術

あつし  
**脳神経外科**

あめみや やよい  
**雨宮 弥生**



出身大学・最終学歴：杏林大学 平成31年卒  
専門分野：整形外科一般  
得意とする診療領域：—  
今後取り組みたい分野・治療：  
手術件数を多くしたいと思います。

あつし  
**整形外科**